資料2

平成25年度「奈良県こども・子育て支援推進会議」委員意見要旨

	分野等		第１回(H25.7.16) 県の子ども・子育て支援の推進について	第２回(H25.11.27) 保育士確保対策やワーク・ライフ・バランスについて	第３回(H26.2.26) 今後の子育て支援のあり方及び子育て支援計画の策定について
基本視点	子どもの利益の尊重		○**子どもの育ちに視点**を置いた施策の実施。		
	すべての子育て家庭への支援				○幼稚園に求められるものも多くなってきている。働く女性を応援することも大切だが、**すべての子育て家庭への支援**をお願いしたい。
					○子育て家庭全般の支援が必要。
	地域の実情に応じた取組		○**過疎地域あるいは少子化地域の子育て支援の資源の確保**が課題。**町村部の課題をしっかり意識**した計画が必要。		○**市町村における子育て支援の取組に格差**があるので、県として調整役を果たしていけるよう役に立ちたい。
			○**都市部での待機児童解消**と**過疎地域での子育て支援の資源の確保**が必要。		
ライフステージ	全般	社会全体での結婚・子育て応援		○**生き方のモデルを示す等、全体的なムードを作っていかないと、出生率は上がらない**。	○子育てするには、独身女性の力も必要。いろいろな立場の人が気持ちよく働き続けられるようにすることが大事。
				○出生率を上げることが、何より大切。	
				○未婚率が上昇したため、少子化が進んでいる。未婚率が上がる背景には、女性の自己実現への意欲の高まりがある。	
		ワーク・ライフ・バランスの推進	○ワーク・ライフ・バランスの制度が作られていても、それを利用できる環境ではない。	○女性のキャリアアップを考えた時、ワーク・ライフ・バランスはまだ制度として準備しきれていない。	○男女雇用機会均等法施行以降、女性は多くの役割を担っており、一人ではやっていけない。
			○在宅でも仕事ができる形が望ましい。	○**ワーク・ライフ・バランスは、企業が本気になって取り組まなければならない**。早急に、企業が経営計画の中に位置づけていく必要がある。	○企業では、妊婦や子育て女性が残業しているのが現状。
			○育休明け復帰時の保育など、女性への支援が不十分。		○働きながら子育てできる環境整備や基盤整備という形で、県が子育てを応援してくれていることがわかれば、それだれで力強く感じられる。
			○仕事と子育てを両立しやすくするため、企業誘致を進め、県外就労を減らすなど、構造的な改革が必要。	○ワーク・ライフ・バランスについて、会社の考えと行政の考えが、少しずれている。考え方を一体化して進めていかなければならない。	○**女性が仕事を続けていくためには、男性の力が必要**。パートナーを含めて家族ごとで自分たちのワーク・ライフ・バランスの見通しを立てる姿が必要。
			○**ワーク・ライフ・バランスを最重点**に置くべき。子育てしている者同士がワークシェアをしながら正社員で働けないか。	○**働きたい人が働き続けられ、家事・育児に専念して再雇用を望む人は、それができるようなシステムを作ること**が大切。	○キャリア志向を持った女性が多いので、**働き続けることができる支援**を行政として行うこと。
			○女性がキャリアアップできる道筋が必要。	○男性も幼稚園や小学校のPTA役員を担うなど、こういった面でも、男性と女性のバランスを見ていかなければならない。	
				○ワーク・ライフ・バランスを進めていくには、働く場が近くにあることと、保育サービスの充実が必要。	
	結婚期	結婚に向けた支援			○**結婚に向けた環境整備**は、ぜひ整えてほしい。出会いに関する対策が知られていないので、積極的に広めてほしい。
		次世代の親の育成			○今の若い世代は、**子どもを産み育てて次世代につなげていくという人間的な形成**ができていない。企業も、若い世代に対して、もっと人間形成的なアプローチが必要。
					○今は、「自分の人生は自分が楽しむ」というように人生観が変わってきたが、次世代につなぐということを教えることや出会いのチャンスを作ることも必要。
					○昔は親が子どもたちに、ある程度の年齢になると結婚を勧めたが、今は、そういうことが少なくなった。
	子育て期	保育等多様な子育て支援サービスの充実	○行政と中小企業数社との共同で事業所内保育施設や放課後児童クラブ等の企画ができればよい。	○保育士はどの方でもよいというわけにはいかないので、確保が難しい。特に、私立保育所では、年度末に向かって採用が困難になる。	○楽しそうに子育てしている姿を広めてはどうか。
					○**母親を家庭で孤立させないで、家族・地域で育てる**という啓蒙が必要。
			○母親の心理的・精神的な子育て不安が強い。	○昔のように、子育てに祖父母の知恵・力を上手く活用できないか。	○親は自分が親からしてもらったことを思い出しながら、子育てしているのではないか。自分の子どもに触れて、しっかり言葉がけができるような支援が必要。
			○社会的養護を支えている保育士も含め、保育士の処遇改善が重要。	○若い人は、保育士としてのやりがいを感じる前に、給与や勤務時間等の条件が大きな問題として感じている。	

	分野等		第１回(H25.7.16) 県の子ども･子育て支援の推進について	第２回(H25.11.27) 保育士確保対策やワーク･ライフ･バランスについて	第３回(H26.2.26) 今後の子育て支援のあり方及び子育て支援計画の策定について
ライフステージ	子育て期	保育等多様な子育て支援サービスの充実	○保育の量的拡大について、既存の幼稚園や施設を上手に活用すべき。	○潜在保育士をどのように保育士の仕事につなげていくか。これから就職する若い人たちに保育士になってもらうことも考えるべき。	○親がさまざまな行政支援をすべて利用できるように、具体的な情報がわかりやすく入手できるようにすること。
			○0～2歳の子どもを在宅で育てている多くの母親がしんどさを感じている。孤立して子育てしている母親を救い出す解決策を出してほしい。	○幼稚園でも教員不足。幼稚園は免許更新制があり、更新のハードルはかなり高い。	○**子育て中の親を孤独にさせない、寂しくならないようにする**取組が大事。
			○保育所･幼稚園からできるだけ幼保連携型認定こども園に誘導すること。	○香芝市でも保育士不足。幼稚園の収容率は50％前後だが、認定こども園になかなか踏み切れない現状。	○幼稚園の保護者が受け取る就園奨励費助成に県内格差があるので、調整していくことも大切。
			○0～12歳までしっかり安心して子どもを預けられる制度が必要。	○保育士について、1時間でも高給を取れるといった賃金体系に変えていかないと、雇用することは難しい。	○**子育ての当事者である親が親としての役割を果たす力をどのように育てていくか**という観点が必要。
					○出産後早期から、**親自身が親として育つことを助けていく**ことが大切。専門的な支援が必要なケースには、行政や地域の人等第三者が支援するというように、対象により支援方法を変えること。
					○**親同士で子育ての問題を解決できるように、行政が支援する**仕組みが求められている。
		男性の育児参画		○**男性が育休等の制度を利用しにくい雰囲気**が職場にある。	
		子育て女性の再就労支援	○奈良県では、子育て女性の再就職は難しい。	○吉野町では、子育てを終えた方々が、学童保育の子育てサポーターとして参加されている。このような形でチャレンジしたいという意欲がある。	○最近は、**若い女性が起業**して頑張っている。10年後、20年後の働き方を提案してもいいのではないか。
			○中小企業が地域の雇用を守っていきたい。		
			○女性の力をもっと社会に活かしていくべき。活かせる場を提供するのが行政の役割。	○**個々の人に合わせた働き方ができるよう**、相談体制や育休中の研修等のサポートが必要。	
			○子育て女性が正社員になるのは大変であり、それが可能な企業は少ない。	○**子育てしている人をどれだけ働く場に引き込むか**が大きな課題。**働き方の選択肢を増やすこと**がこれからの課題。	
				○働く女性たちは、災害時に災害対応をしなくてはならないが、その時、誰が子どもたちやお年寄りを見てくれるのかを考えてほしい。	
				○働く側の短時間勤務の希望と雇用者側のニーズがずれている。**一度家庭に入った方々が再就職できるシステム**が必要。	
				○福井県は合計特殊出生率が高いが、ほとんどの女性が働いている。三世代同居が多く、女性が働く場が近くにあることが大きな要因。	
				○母親はフルタイム勤務よりも、子どもが学校に行っている間だけの短時間勤務を望む。	
				○働く側が希望する働き方と雇用する側のニーズに大きなギャップが存在しており、調整が必要。	
				○企業が変わり、女性の会社役員･管理職のシェアを上げていく必要がある。**女性が男性と同じように、キャリアアップしていく仕組み**が企業に必要。	
				○子育て女性がワークシェアをして、正社員としての立場を保ち、キャリアを確保していれる仕組みを作っていくことが必要。	
				○女性はまだフルタイムで働くのではなく、4時間や5時間という段階を踏んでいる状態。	
		要保護児童への対応		○社会的養護を担う保育士の確保も大切。	○**虐待を受けた子ども**は子育てに関して良い学びができていないので、将来子育てすることに向けた支援が必要。
		家庭･地域の教育力等の充実		○保育士は資格さえ持っていればいいのではなく、「子どもへの教育」の観点や人間性がとても大切。	